

第2期三朝町まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

日時：令和5年2月27日（月）

10：00～11：45

会場：三朝町役場第2会議室

1 開会

青木地域振興監	それでは時間になりましたので、お待たせをいたしました。ただいまから、第2期三朝町まち・ひと・しごと創生推進会議を始めさせていただきます。私は、本日の進行をいたします。三朝町役場の地域振興監という仕事をしております青木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、開会にあたりまして松浦町長からごあいさつを申し上げます。
---------	---

2 町長あいさつ

松浦町長	<p>皆さんおはようございます。今日は大変お忙しいところ第2期のまち・ひと・しごと創生推進会議にご出席をいただきましてありがとうございます。3年間続いたコロナの方も、ようやく落ち着いてくるのかなというふうに思っております。何とか三朝町、三朝温泉全体が乗り越えてこれましたが、もう1年、2年、ちょっと不安が残るところでもございます。そんな中で、やはり3年間停滞しとった分を取り戻しながら、前進をさせていかなければならないという思いをしております。これから皆さん方にまたご意見を頂戴しながら進めて参りたいというふうに思っております。</p> <p>今日は、これまでの検証の計画での検証状況なり説明をさせていただきますが、日程の中で4番の日本遺産の件につきましても、再認定ということにはなりましたが、それ以降非常に体制を立て直しながら、皆さんにご協力をいただいております。そして5番の温泉を活用した健康まちづくり事業は、これまでは基本的な構想を進めて参っております。これから2年間のうちに何とか事業をスタートさせたいという思いがございますので、是非とも、皆様方の改めてご意見なりご協力、ご支援を頂戴できればというふうに思います。</p> <p>今日は報告事項が主になると思っておりますけど、ぜひとも皆様方から、日頃の思いだとか、知恵等のいろんな御意見を頂戴するいい機会だというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。</p>
------	---

3 自己紹介 資料1

青木地域振興監	人事異動等で交代があったところもございますので、名簿を見ながらではございますが、自己紹介をお願いをしたいと思います。それでは欠席がございましたので、三朝町商工会の福田会長様より、順番に自己紹介を回して参りますのでよろしくお願い致します。
福田委員	おはようございます。三朝町商工会会長の福田でございます。どうぞよろしくお願い致します。

	す。
山本委員	おはようございます。三朝町農業委員会の会長をしております山本です。よろしくお願いいたします。
小川委員	おはようございます。鳥取県中部森林組合の組合長を仰せつかっております、小川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
野上委員	はい。おはようございます。ハローワーク倉吉所長の野上と申します。昨年4月から山口市より参っております。どうぞよろしくお願いいたします。
山名委員	日本海ケーブルネットワーク倉吉放送センター長の山名と申します。よろしくお願いいたします。
高見委員	竹田地域協議会の会長をしております。今回の出席は三朝町に六つの協議会がございますが、その連絡会の幹事ということで出席させていただきました。高見でございます、よろしくお願いいたします。
西田委員	おはようございます。三朝町教育委員会教育長の西田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
前田委員	鳥取銀行の前田と申します。倉吉中央支店長の前田が委員なんですけど、本日所用で参加できませんので、副支店長の私も前田というんですけど、代わりで参加させていただいております。よろしくお願いいたします。
太田委員	倉吉信用金庫営業部長、三朝出張所長の太田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
塩谷委員	おはようございます。三朝町内に四つある郵便局の代表として来ております。三朝郵便局の局長をしております塩谷です。よろしくお願いいたします。
岩本委員	おはようございます。NTT西日本鳥取支店ビジネス営業部エンタープライズビジネス営業公共営業担当課長しております岩本と申します。昨年に引き続き2回目の出席となります。本日はよろしくお願いいたします。
岸田参事 (オブザーバー)	皆さんおはようございます。県中部総合事務所県民福祉局の参事をしております岸田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。オブザーバーとして参加させていただいております。
青木地域振興監	自己紹介ありがとうございました。 それでは早速でございますけれども、これより松浦町長が議長となりまして議事を進行させていただきます。よろしくお願いいたします。

4 議題

(1) 第2期三朝町まち・ひと・しごと創生総合戦略重要業績評価指標検証等報告

資料2、資料3

(2) 三朝町過疎地域持続的発展計画事業実施状況及び達成状況 資料3

(3) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金令和2・3年度事業実績及び令和4年度事業予定 資料4

松浦町長	<p>それでは、私の方から進行させていただきます。最初に報告事項になりますが、(1)の第2期三朝町まち・ひと・しごと創生総合戦略の重要業績評価指標検証等の報告について、お願いします。</p>
青木地域振興監	<p>それでは、お話をさせていただきたいと思いますが、議題につきましては、1番から5番までございますので、3番まで説明をさせていただいて、そこでご意見をいただくということで、残り4番5番をまたやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。</p> <p>それでは1番の、三朝町まち・ひと・しごと創生総合戦略の重要業績評価指標検証等報告ということでございます。資料2をご覧くださいながら、聞いていただきたいと思います。評価指標につきましては、総合戦略の進捗を図るために設定した目標でありまして、その達成状況につきましては、資料2の中で、別表1において、記載しております。A4の縦型でございますが、令和3年度の確定値と令和4年度の見込み値を記載しております。また、別表2におきまして、それぞれの具体的な事業概要を紹介しております。直前ではございましたが、事前にお配りをしておりますので、ご覧いただいたかなというふうに思っております。それぞれの指標につきましては、コメントはいたしませんけれども、伸びてきておるものと、コロナ等の影響があつてなかなか進んでいないものもございまして、地方創生が時を同じくして始まりましたコロナの感染症の影響等も考える社会の変わりということもございまして、それらの状況を見ながら、計画に沿って進めておるところでございますので、少しそういう目線で見ただけならなというふうに思います。</p> <p>それから、2番のまち・ひと・しごと創生に関連するトピックスということでございます。これにつきましては、もともと、本町の地方創生は、第11次総合計画に沿う形で、令和2年の3月にまとめたものでございまして、5つの分野を出しながら、それぞれの分野に沿って進めております。令和4年度を中心にこのトピックスで、分野ごとに起きたようなポイントになるようなものを、各役場の関係課からの聞き取りということで取りまとめておまして、そこを見ながら、ポイントになるところは黄色い線を入れておりますけれども、少しご紹介をしてみたいと思っております。相互に関連をしておりますので、分野で跨るということもあると思っておりますが、ご理解をいただきたいと思います。</p> <p>それではまず、分野別の将来像1でございます。「感性と自立心を育む町」につきましては、学校教育の充実に向けてということでございますが、課題にございました統合いたしました三朝小学校の新しい校舎の建設に着手をしております。令和7年度の供用開始に向けて進めておまして、新しい校舎の建設ですけれども、中学校との隣接をさせるということで、将来的には同じ校舎の中で、小学生・中学生が入るということも視野に入れながらの取り組みでございます。まずは、令和7年の供用開始に向けて、本町が目指しております小中連携教育を具体化していこうということで、その取り組みを強化しておるところでございます。</p> <p>それから、次代を担う人づくりにつきましては、本町の町づくりの大きな特徴でございますけれども、国際交流や国内交流に取り組む中で、相手の市町との連携によりまして、体験</p>

交流でありますとか、人材育成に取り組んでおります。コロナの影響が非常に大きかった分野で少し立ち止まっておたということですが、動きを始めて参っております。フランスのラマルー・レ・バン町との交流は30周年を迎えておりますし、台湾台中市石岡区への国外につきましては中学生の派遣ですとか、国内の京都府城陽市でありますとか、滋賀県多賀町につきましては、小学生の交流等も進めてきております。リモートの会議、国外も含めてですけれども、リモートの会議等も定着をしてきておまして、双方に顔をあわせてお話をすることも可能になってきておりますので、新たな可能性ということで展開しておりますが、今後は民間団体等の交流も活発に進めていく必要があるという認識でおるところでございます。

それから一方、少子化・高齢化・過疎化等の影響から、地域を担う人材の確保が容易ではないということで、どの分野もでございます。協働による地域の活性化につきましては、昨年度は集落の実態調査を行うということ。それから、15年が経過をしております6つの地域協議会について、そのあり方を考えながら、新たな展開を進めようとしておるところでございます。15年間で目に見えないうちにどんどん姿が変わってきておるということでここをしっかりと受けとめていくということで進めておるところでございます。

続きまして、分野別将来像の2でございます。「支え合いでつながる町」という分野でございますが、安全安心の地域づくりに向けてということでございます。災害や、火災等天災に対するものでございますが、これも本町の特徴であります消防団を安定的かつ持続可能な組織として育成していくということで進めておるところでございます。これにつきましては、最近ちょっと報道していますが、消防団のあり方に繋がるアンケート調査等も実施をしまして、団の強化、運営の改善、処遇改善等も視野に入れながら、取り組んでおるところでございます。

一方で、住民のコミュニティに求められております共助という視点でございますが、消防団の裏で、どちらかというと三朝町のウィークポイントでございますけれども、共助という視点で、支え合いマップ等の作成等も通じまして、広がりはややかではございますけれども、集落の弱体化が進む中でしっかり進めようということで、動きを出しておるところでございます。それから、全国的に課題となっております空き家問題につきましては、昨年11月に新たに外部委員にも参加をお願いした対策協議会を立ち上げておまして、ここでの協議等を含め、専任の職員といいますか地域おこし協力隊等も活用しながら、空き家バンクの拡大発展等を目指して、移住定住の環境も進めておるところでございます。

もう1点、公共交通につきましては、路線バスの運行等がなかなかの中、コロナのこともありまして少し落ち着きをみせております。令和3年の10月から、本町では初めてとなります町営バス等の運行も開始をしておまして、1年が経過したところでございます。乗っていただくということと利便性ということ、さらには、利用と経費のバランスということを勘案しながら、あるべき公共交通を維持発展させていこうという取り組みを進めております。

続きまして、将来像3でございます。「いのちと健康を育む町」につきましては、子育て環境の充実ということでございます。どこの町でも一生懸命取り組んでおられる分野でござ

いまして、なかなか個性といいますかポイントになるものを出しづらいというところもござ
いしますが、その一つとして温泉病院と連携をしまして、産後の母体ケアをする産後ケア健診
というようなものも考えて実施をしております、受診率は100%ということで、成果につなげて
おるといふふうに思っております。出生数がかなり落ちております。コロナ等の影響もござ
いしますが、そういった中での取り組みではございますけれども、生まれる子供さんの母体の
ケアでありますとかその環境づくり、さらには、不妊治療でありますとか経済的支援、その
後の相談窓口といったものを、きめ細かに進めておるところでございます。それから、地域
福祉や高齢者福祉につきましては、その充実の観点から、新しい取り組みで従来は集落でサ
ロンというような形を取り組んでおりましたがこれに加えて、ショッピングデイサービ
スと呼んでおりますが、買い物支援ということが課題にもなっておりますので、集団で買い
物に行きながら、交流をするというようなことを、新しい手法としての取り組みも始めてみ
ております。後に触れますけれども、温泉を活用した健康まちづくり事業を提案してしま
す。これは、従来は観光分野で活用しておりました温泉、健康効果を町民の健康づくりに活
かした取り組みにまわしていこうと、示していこうというものでございます。いのちと健康
を育む町の新たなシンボルということで進めながら、現在基本構想を策定中のものでござ
います。

続きまして将来像4、「豊かな資源を活かす町」でございます。これは産業振興というこ
とになって参ります。当然でございますが、観光の町の推進、商工業のにぎわいづくりに向
けまして、コロナ禍での事業を国等のG o T oトラベル事業でありますとか、県のWe l
o v e山陰キャンペーン等を積極的に組み合わせまして、単町の支援をその間に挟みなが
ら、切れ目のない支援をしてきておるところでございます。また、コロナ後を見据えた取り
組みとして、観光庁が実施をしております、観光地・観光産業の再生・高付加価値型補助事
業というようなものも導入をいたしまして、観光施設の整備改善等に積極的に事業展開をし
ておるところでございます。資料には記載をしておりますけれども、ここに最近、三朝温
泉には新規参入が続いております。バルコスさんがオープンされた「バルコス旅館三朝荘」
さんでありますとか、三朝温泉ではございませんが、三徳山の「白狼堂」さんのスイーツ、
さらには、先般オープンいたしました、「三朝ヨーグルト」さんの出店等は、温泉街に新し
い風を持ってきておるといふことで、引き続き、こういった流れを活かしながら続けていく
という視点での推進を図っていくという気持ちでおるところでございます。観光分野では、
日本遺産の推進というのが大きな命題になってきております。先ほど町長の言葉にもありま
したけれども、災いが転じてということではございませんが、各分野からの支援、それから
地元の方の懸命な取り組み等も踏まえまして、かなり頑張らせていただいております。和歌山県でありま
すとか、東北の方の町とも手を取りまして、一緒になって発信していこうということで、取
り組みを進めておるところでございます。

それから、農業分野でございます。なかなか難しい分野となっております、ホットな話
題としては、新しい高収益作物としてのブロックリーの試験栽培を令和3年から始めてお
ったり、引き続き地大豆の推進に取り組んでおるところでございます。先ほどの三朝ヨーグル
トさんあたりですと、いわゆる白バラ牛乳さんとか、町内で取れるいちごを使っていたい

	<p>たりというようなことで、まだまだ大きなことではないんですけれども、繋がりを持ちながら、生産との現場とのコラボも進んできておるということでございます。</p> <p>それから、森林・林業でございます。これにつきましては、1月27日に、「ゼロカーボンシティみさき宣言」ということで、森林環境を活かした取り組みを始めていくということで宣言をしたところでございます。山が多い町でございますが、多すぎまして活かしきれていないというのが欠点でございますので、そういったことをあらためて進めていくということでございますし、Jクレジットにつきましても、令和5年度は立ち上げをするということで進めております。</p> <p>それから、将来像5でございますが、「笑顔で元気に暮らせる町」ということでございます。この分野だけは少し抽象的なテーマでございますが、人口減少、少子高齢化、過疎化という課題に対して、解決に向けて町民が力を合わせていくということが大きなテーマになっておるところでございます。その中で、人口の問題は、のちほど過疎債の過疎計画のところでもありますので、そちらへ回しますけれども、関係人口とか、Iターン、Uターンというような切り口で、先ほど移住の推進をするということでございますけれども、大きな動きはなかなかなんですけど、できてきた様子を少しずつPRしながら、町の魅力づくりを上げていこうとしておるところでございます。</p> <p>ふるさと納税についてでございます。寄付の方から好評をいただいておりますけれども、もう少し拡大していこうということで、新たな取り組みとして、令和4年度には企業版ふるさと納税といたしまして目的を持った企業からの納税を受けるというものでございますけれども。これと、令和5年度には、また新たなやり方でございますが、クラウドファンディング型のふるさと納税ということで、これも要するに、応援したいテーマをもう少し絞った形で売り出していくというような仕組みのものでございますけれども、より明確な目標に向けて応援をしていただくということで、仕掛けを今つくっておるところでございます。いろいろ取り組みを進める中で難しさはございますけれども、持続可能な三朝町づくりということだと思っておりますので、地方創生自体も少し変わりつつあるのかなというふうには思いますが、そういったものを受けながら、進めておるところでございます。コロナ禍の中では、ご意見はペーパーでももらってきております。随時、思われたことをいただくという姿勢でおりますので、今日の会議でもご発言をいただきたいと思っておりますし、後程申しますが、ペーパー等での具体的なご提案等も大変役に立っております。引き続きよろしくお願いいたします。検証については以上でございます。</p>
村上企画課長	<p>失礼いたします。ご挨拶が遅れましたけれども、役場の企画課長をしております村上と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>私の方から2番、「三朝町過疎地域持続的発展計画 事業実施状況及び達成状況」につきましてご報告申し上げます。着座にてご説明させていただきます。お手元の資料は3番をお開きいただければと思います。過疎計画でございますけれども、令和3年に制定された新しい過疎の持続的発展のための特別措置法に基づきまして、この年に本町におきましても、過疎地域持続的発展計画を5ヵ年計画で定めたところでございます。これに基づいて諸施策を進めていくということにしております。この過疎計画の目指すべき基本目標を、町の総合戦</p>

略に掲げております人口ビジョンに基づきまして、それに合わせまして、1ページの①番に記載しておりますように、令和7年に人口規模5,800人を維持するという設定をしたものでございます。令和3年の現状をみますと、人口移動調査によりますと、町の人口は5,915人ということで、令和7年は先ではありますけれども、もう評価としては厳しい、思わしくないという状況と言わざるをえないというふうに考えております。この基本目標の達成のための方針、主要な要素ということで、町の過疎計画に掲げておりますのが、②番の目標出生数の維持、それから次の2ページ、③番の転出超過の解消、④番の若年者の転入促進、こういったものに目を向けて取り組んでいかねばならないということで定めておるものでございます。それぞれの取り組みの施策としまして、出生数の維持ということに関しては子育ての環境を充実させるということ、それをPRしていくということ。転出超過の解消、転入促進ということにおきましては、住宅等の支援補助金など、若年者向けの転入促進のための助成制度を設けております。その他、町外等に出られた学生さんのための情報提供ということで、Uターンを呼びかけるような仕掛け、それから青木も申しましたように、空き家バンクの整備、住環境の受け皿ということで、引き続きやってきております。移住定住につきましては、ホームページのポータルサイトを作ってコンテンツを徐々に強化をしてきております。それから、移住担当のスタッフの増強も行いました。そういったことで、近年の移住者数は平均30人程度で推移をしてきておるところですけれども、人口減というところには、足りてないというような状況というふうに言えます。

3ページ以降は、この過疎計画に記載しております事業計画の実施状況ということで書いております。過疎対策を実施する上で、過疎対策事業債、起債です。比較的有利な財源ということで活用をさせていただいておりますが、この過疎対策事業債を充当して実施をした事業を一覧の形で掲載をさせていただいております。3年度・4年度の欄に丸印をつけておるところがございますので、あわせてご参考いただければと思います。3年度につきましては、例えば小学校の施設整備、それから、FTTHケーブルテレビの光ファイバー網の整備のために、主に活用させていただきました。令和4年度も新しい小学校の施設整備のために、その多くを活用させていただいているところでございます。この項については以上でございます。

続きまして、議題の3番もあわせてご報告をさせていただきたいと思っております。「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の事業の実績及び令和4年度予定」ということでございます。お手元の資料4番をお開きいただければと思います。ちょっと重なっておりますが、A3の横長の紙になります。全部で7枚お付けしております。これは、国の交付金を活用しまして、感染症の拡大防止と、コロナ禍で影響を受けました事業者様、それから地域住民さんの支援を通じて経済活動、地域活力の維持を図ったところでございます。どういったものに充てたかということで整理をさせていただいております。最初の3枚、4枚が、令和2年度・3年度の実績でございますけれども、この両年度に合わせて、47の事業を実施いたしました。各事業の実績を記しておりますが、充当した交付金につきましては、令和2年度・3年度合わせて4億円程度ということになります。事業効果というところにつきましては、すいません、すべてではないんですけれども、全国でも実施しておられます典型的な事業を中心にコメントを記載しております。比較的定性的なコメントでございまして、定量的

	<p>な効果の測定というところには至っておりませんが、この苦しいタイミングで、国の支援があったということで、影響を緩和するという意味で一定の効果はあったものではないかと考えております。</p> <p>また、5枚目以降は令和4年度の事業でございます。延べ31の事業を実施しております。規模としては2億円程度ということになります。特に今年度は、原油価格ですとか、物価の高騰といった影響がございました。そのための事業者様、それから実際に生活に苦しんでおられる住民さんの支援という名目で交付されたものもございますので、その影響が緩和できるような事業組みをして実施をしておるところが一つ特徴でございます。この件については、報告は以上でございます。</p>
松浦町長	<p>いま、3事業の報告をさせていただきました。報告事項で一旦区切りをさせていただいて皆様から、お一人ずつご意見を頂戴したいと思っております。そのあとの4、5についてはまたもう一度皆様方からあらためてご意見を頂戴したいと思っておりますので、それぞれにご準備をしていただければと思います。最初に1、2、3の項目につきまして、ご意見、ご質問等頂戴をしたいと思っております。福田委員さんの方から、ぐるっと回るという形で、頂戴をしたいと思っております。次の4、5については、西田委員さんからぐるっと回るという形で、ご意見なりご質問、ご提案を受けたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。では、福田委員さん、どうぞよろしく申し上げます。</p>
福田委員	<p>いろんな取り組みをされております。特に2年、3年、コロナ直撃のときかなと思っております。やっぱり気になるのは、出生数の減少というか、超減少ですね、20人台。今回、令和4年度は18人という表現もあります。それが非常に気になるところです。住宅政策等をもうやはり町にとっては必要なのかなというふうには思っております。もちろんこの中で、出会いの場がなくなって結婚する機会が非常に減ったというの、日本全国であることなんですけども、ここの部分をやはり少し力を入れていかないと苦しいのかなあと、町として目標の5,800人ですかね。それがもっと減っていつっちゃうのかなというふうには思っております。ちょうど小学校も今工事にかかったところでもあります。何とかその辺でどんどん三朝町をPRして、住宅環境を整えていくというのを、町の方には進めていただきたいなというふうには思っております。</p> <p>あとは、いろんなコロナ対策によるいろんな交付金をいろんなところで主張されて、本当にいろんな分野の方々が助かったっていうのは事実であるというふうには思っています。そこは非常に評価したいと思っております。</p>
山本委員	<p>私の方は農業関連ということですけど、実際にいま各農家の意見とか、いろんな会合での話を聞いても、なかなか国の支援というのは、結構国・県も含めて、策としては出てきてるという、飼料高騰なんか特に最近はそうなんですけど。どうもねえ、そのお金があっても人がいないっていうのか、使う人がいない。使い方もわかんないっていう状況にどんどんどん入ってるんで。ものすごくそこを今心配してます。要するに、まず使い方がわかって使ってくれる人を育てるというのか、一番気になったのがさっき福田委員さんも言われたんですけど、その下の、若年層の転入促進のところで、15歳から34歳の部分の表はあるんですけど、その上の部分ですよ。なんかそこをちょっと見てみたいっていうのか、ものすごく</p>

	<p>く気になるんですね、そこもね。どうしても15歳から34歳の方に農業っていうのはいま現実的になかなか難しいと思いますし。その部分を何かやれないかなあという部分で、その状況を聞きたいなというのは感じたところです。</p>
<p>小川委員</p>	<p>そうしますと、自分の方からは、今山本さんおっしゃったように、自分のところは森を守る立場のことから何点かお話なりお願いをさせていただきたいと思います。まず1番のですね、資料2の報告の中の、分野別将来像の中で、将来像の3と4と5。これが我々の森というものが関わりを持ってくるのではないかということで、以前もお話なりお願いもした経過があるかと思っておりますが、まず、いのちと健康を育む町という中で、やはり今の健康志向、確かにかなり強くなってきてるわけですが、全国的にも保健休養林といいますか、森林を基とした健康の維持等々、こういったことがかなり取り組みをされてるということで。あらためて、何か温泉と森をつないだ、こういった健康を育むまちというような取り組みもですね、昨年から林野庁の方も、森林サービス事業という予算が、大きな予算ではありませんけれども、かなりそういったことにも今、目を向けてきておりますので、また今後、そういったことについてもご検討をいただければなと思っております。</p> <p>それと、申し上げた将来像の4、豊かな資源を活かす町ということで、本町もですね、約89%の林野率、森林率というようなことで、約21,000ha弱の森林があるわけですけど。これも自然豊かな森ということですね、これももう少し活かすようなことができるかなということで、先ほどちょっとふるさと納税のこともおっしゃいましたが、まずその前にですね、ちょっと後先になりますけど、ゼロカーボンシティの宣言をされたということをお聞きしまして、Jクレジットというものについても令和5年度から設定認定目標をされてるということです。自分のちょっとした知つとる四国の町村の方がですね、青山商事さんの方と企業版ふるさと納税ということで、数千万の寄付行為といいますかそういったふるさと納税的なものをしていただいて、森林保全の方にいま活用をされておるといようなこともお聞きしております。何とかこういった自然豊かな森を活用する、例えば三朝の温泉の方でキクラゲの栽培もされたりということをお聞きしておりますが、何とか森を活用した、キクラゲの栽培とかそういったことを、また今後この豊かな資源を活かすという意味からもご検討をいただくようなこともお願いできればなというふうに思っております。</p> <p>説明が後先飛び飛びのご説明なり意見になりましたけど、そういったようなことを今後さらに我々とした立場としても、何とか森を活かしたような取り組みについて、またご提案等もさせていただければなと思っておりますので、重ねて森というものを中心とした町の取り組みというものも今後さらにご検討いただければと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。</p>
<p>野上委員</p>	<p>ハローワーク倉吉の野上と申します。資料の3番でございますが、三朝町過疎地域持続的発展計画ということで、人口減少が進んでるということで、毎年100人前後の減少が続いておって、令和7年には人口規模が5,800人ということで、かなり厳しい状況っていうのが続くのかなというふうに思っておりますが、やはり全国的に出生するというのは、低下ということなんですけど、人口を減少を食いとめる対策っていうのが重要じゃないかなというふうに思っております。その中で、やはり子育て支援の政策っていうのを、重点的に取り組んでい</p>

	<p>ただくといいのかなというふうに思っておるんですが。今朝、日本海新聞の方で、その辺がちょっと記事になってたので、ちょっとご紹介させていただきたいと思うんですが、まず子育て中の女性の現状というのが、よもやま話であったんですけども。第1に「金」、人並みにしてあげたいと思う費用負担が重い。次に「自分のキャリアが途切れる不安」があると。それから、「家事と育児をしっかりとこなすよう求める社会規範」これでは、若者が子どもを持たない選択に傾くのも無理はないという。これ、すごく共感することであって、現状打開するにはどうしたらいいかというのがちょっとうたわれておまして、あらゆる場面で子がいることのインセンティブを設けるべきということで、ここすごく、大事なのかなと思って、やはり予算的なものもあるとは思んですけども、例えば出産したら、奨学金が返済免除とかっていうような大胆な施策を持って、住みやすい、子育てしやすいまちづくりというのがあっていいのかなというふうに思います。また、今実際にその移住されて三朝町で移住してきたらよかったなというふうに思ってるその声というのをですね、すごくアピールしてもらって、また残念だなんていう声があるならば、そういったところをいろいろ聞いて、対策を打っていただけたらいいのかなというふうに思います。</p> <p>それから、私、今回労働の立場ということできておりますので、若干雇用調整助成金ということについて触れさせていただきたいと思いますが、雇用調整助成金ということで、企業が休業してる時に、助成金ということで手当をするものなんですけども、特例措置というか特別措置というのがもうなくなって、雇用調整助成金が前の原則的な取り扱いに戻っております。なかなか原則的な取り扱いになると、活用がすごく難しくなってくるので、今後そういった中で事業の継続というのがますます難しくなってくるので、その中で、どういうふうに事業継続が上手に回るのかなというのが、思っておるところでございます。</p>
山名委員	<p>日本海ケーブルネットワークの山名です。資料の3の中でも触れられておりますが、超高速通信網整備事業ということで、令和2年度から3年度にかけて、三朝町の住民ネットワークの光化事業で三朝町さんと一緒に光化を進めさせていただきました。これによってすべての住民さんのお宅のところまで光インフラの準備が整っているという状況になっておりますので、今後はその光をいかに活用していくのかといったようなところが大切になるかというふうに考えております。資料の中でもBWAであつたりだとか、高齢者の見守りというようなどころが出てきてるんですけども、そういったようなところですね。例えばBWAであれば、観光であつたりとか、旅館の宿泊者さんや従業員さんに使っていただく。それから、何か有事の際は避難所のWi-Fiとして活用していくというようなところを進めていきたいと考えております。また、高齢者の見守りのサービスの部分なんですけども、今年度実証実験を行っておりまして、利用者の方にお話を伺いますと、基本的には満足して使っているというようなところになっておりますので、これをいかに持続させていくのかといったようなところを、これから進めていきまして、住民さんに安心して三朝町で暮らしていただける仕組みというものをつくるお手伝いをさせていただけたらなというふうに考えております。</p> <p>あと、ちょっとうちは直接関わっているわけではないんですけども、分野別の将来像の5のところですね、SNSのフォロワー数を増やしたいというようなところがあります。三</p>

	<p>朝町さん、SNS非常に、拝見させていただきますと、たくさんいろいろなところを発信されてるんですけども、NCNの方がスマホ教室というものを、実は昨日、みささ村公民館で開催をさせていただきました。そういったときに、やはり住民の皆さんがSNS、ちょっとわからないなということでおっしゃられてましたんで、インスタグラムで例えばこういうふうに見えるんですよということで、説明をさせていただきましたら、「これはいいなあ」ということで、教室に参加された皆さんはフォローされてましたんで、昨日そういう知らないとかわからないというような方に気づきを与えるきっかけというようなところで、そういったスマホ教室等も今後もやっていきたいなというふうに考えております。</p> <p>あと最後になるんですけども、ケーブルテレビっていうと、どうしても地域の中での放送というところで今までさせていただいてたんですけども、いま、全国のケーブルテレビ局の中で、アプリ等を活用して外に発信していくという仕組みを、実証実験を行っております。こういったことをまたうまく活用していただきまして、観光であるとか、移住定住の促進というようなところに、またケーブルテレビを活用していただけたらなというふうに考えております。</p>
高見委員	<p>地域協議会の関係で出させていただいてますので、3点ほど気になる部分というか、考えていただきたいなというふうに思うことについて発表させていただきます。一つは、現在協議会でも検討してますけど、10年も経つとすごく社会変化が激しく変わってきてるというふうなことです。いかに社会変化をとらえて、次の対応をどうしていくかっていうことを先行的に考えていかないと、なかなか通用しなくなってくるというふうなことが一ついえると思います。</p> <p>そういう中で、いろいろと各分野にわたって実証的な取り組みっていうのはされてるんですけども。されるのはいいんですが、なかなかそれが実際に実を結んできてない部分っていうのがあるのかなという、実験が実験に終わってるっていうふうな部分があるのかなというふうに思いますんで。やっぱりもうピンポイントでもいいから、一つでも二つでも、その実をあげるような取り組みっていうのも必要なのかなっていうふうに思います。</p> <p>それと、いろんな取り組み、事業がされているんですけども、関係者だけの共通事項というか、共有されてるっていうふうな部分があるのかなという、ちょっと枠から外れた人たちには全く伝わってないのかなという。いい事業でいい取り組みなのに、情報が共有できてないっていうような部分があって、広がり欠ける部分がありはしないかなというふうな思いがしておりますので、その辺を上手に事業展開を行う上で広く幅広く周知させていくということも大事なのかなっていうふうに感じました。</p>
西田委員	<p>教育長の西田でございます。まずは小学校建設、ただいま行っておりまして、ICTとかコロナ対策、そういうようなものを含めた、今日的な環境にマッチしたものになるように努めているところでございます。また、先ほど小川組合長さんが林のこと言われました、三朝町の林を活かした、そういう木材を使った子供たちに、ぬくもりのあるそういう校舎を目指していきたいなというふうに思っているところでございます。引き続き皆さんにご支援お願いしたいと思います。</p> <p>ここの分野別将来像1のところ、コロナの影響で国際交流は中止になっているわけです</p>

	<p>けど、ICTが進むことによって、台湾の石岡中学とのリモートによる交流、或いはラマルー・レ・バン町の子供たちが通っている中・高等学校の日本語クラブとオンラインを繋いで、交流を今現在進めております。フランスの場合時間的なものがありますから、事前に子供たちにはフランスの様子を学習しながら、その成果をオンラインでまた意見交換する、国内交流においては滋賀県の多賀町と小学校同士が、地元の町の紹介をし合うというリモートの学習会に取り組むようなことをやっております。</p> <p>ICTの成果としては、特にその辺りがコロナの影響、GIGAスクールの影響。それによって加速的にICTが進んでるわけですけど、その点、どこも同じ状況、どこの町も同じ状況ですが、一步進んだ取り組みが三朝町の場合できてるんじゃないかというふうに思っております。先ほどから人口の話、資料3の話がありますが、私、特に学校におきましては、新入生とか、中学校に上がった時のその人数がですね、コロナ前の統計しか頭に入っていないんですけど、出生数よりどの学年も多かったですね、っていうことは転入が子育て世代が入ってくるっていう、実績は微増ではありますけどそういうものがあると。先ほどおっしゃっていただいたように、情報発信をもう少し上手にして特に住みやすい、移住しやすい、そして子育てしやすいっていうアピールをいかに実例をもって紹介するかっていうのが、私たちの教育を担うものの課題かなっていうところを思っております。その辺のことは、担当ですので、さらに頑張っていきたいなというふうに思っております。</p>
前田代理委員	<p>私の方からは、ちょっと先ほどから同じような話で恐縮なんですけど、やはり町の持続的な発展といいますか、そのためにはやっぱり若い人たちを中心とした人口減少を抑えるということが重要なのかなと思うんですけれども。今もお話がありましたけど、私を感じるはその若い世帯例え結婚された方が町内に家を建てたいと思ったときにですね、そういう場所があるかっていうところかなと思ってまして。有名なところというか、皆さんご承知かと思いますが、例えば、中部ですとやっぱり湯梨浜町が、宅地がどんどんできてまして、周辺からそこに若い人たちが集まってるというような現象が吸い上げられてるというような感じを受けておまして。普通で考えれば、例えば三朝町で生まれ育った方は、まず一義的には町内で家を建てたいなと思われるのが普通なんじゃないかなと。いきなり倉吉市や湯梨浜町を選択しないと思いますので、宅地分譲っていう話でいけば、民間事業者の話にはなるんですけれども、やはりそういった若い人たちが、町内に家を建てる場所があるとかそういう提供が行政の方で何かできたらいいんじゃないかなあというふうに思います。転入が増えるというよりは転出を防ぐというようなイメージなのかなと思いますけども、そういうことができたらいいんじゃないかなというふうに感じました。</p>
太田委員	<p>倉吉信用金庫の太田でございます。金融機関としての立場からのところで、やはりコロナが明けて、事業者さん等々非常に厳しい状況にありますので、今、特に電気代であったり物価高であったり、企業さんもさらにまた厳しい状況が続いていくことが予想されます。コロナの資金融資等々を、返済が始まっておられる方、これからそれを控えておられる方っていうのもおられる状況にあります。経済がこれからどんどん良くなっていくかということ、なかなかそういった明るい兆しが、みえないというのが今の実情じゃないのかなというふうに思いますので、金融機関の立場としては、そこを精一杯支えていくということは重要なことだ</p>

	<p>というふうには考えております。</p> <p>話は変わりますが、出生数、人口減の話の中です、なかなかやはりこれ、人口を増加させていくっていうのは、今の現状では難しいのかなというふうに考えておりますので、出生数をコントロールすることもなかなか難しい話です。やっぱり減少をいかに食い止めていくかっていうことを考えていくことが重要かなって思ったときに、やはり先日、日本海新聞等々でも出ております、JAさんのスーパーの撤退等々、これ、中部地区でも赤碓、関金等々はスーパーがなくなるということは非常に大きな問題であります。ここちょっと、福田さんがおられますのであれですけども、やはり地域に大切なインフラっていうのがあると思うんですね。役割を果たしてるインフラ、やはりここを守っていくっていうことも、町としては重要なのかな。やはり、便利でないまちに人はやっぱり住まないと思うと、スーパー以外にもたくさんあると思いますけれども、やっぱりインフラをいかに維持していくかっていうのは考えていく必要があるのかなあというふうに私は思います。</p>
塩谷委員	<p>三朝郵便局の塩谷です。郵便局、金融という分野に入ってるんですが、実は金融で何ができるかって、特に貸付をしてるわけでもないですし、金融ということではなかなかお役に立ってないのかなあ。郵便局があってお客さんが利用しやすいってことは、当然郵便局のいいところなんだろうと思いますけども、そういうことよりもですね、やっぱり窓口があって、窓口を交流の場にさせていただいているっていうのが大きいのかなというふうに思ったりですね、やっぱり郵便局、もっと言うとうちは金融ではなくて集配・配達をさせていただいてるっていうのが、私達特に三朝郵便局であればですね。大きなこの町に、インフラって先ほど出ましたけども、インフラとしては活用させていただいてるのかなと、なくてはならないところなのかなというふうに思いますので。そういうところで例えば、ほぼ毎日全世帯とは言わないですけども、全地域を回ってますので、今もさせていただいてますけども、見守りとまではないですけど、例えば郵便物がいっぱいたまるとか、新聞がいっぱいたまるとか、そういうところを報告をさせていただいたりということは、継続をしてこれからもやらせていただきたいなというふうに思ってます。</p> <p>やっぱり発展していくための、人を増やしていく、いかなきゃいけないっていうことで、働き場所が三朝町内になければいけないというふうに思いますので、野上さんもいらっしゃるんですけども、三朝郵便局は今すぐ人が足りないってことはないんですけども、例えば中部でいえば、倉吉の局に配達員が少ないと、なかなか来ないというようなことがありますので。人がいないんじゃないかと、働く方にも問題があるのかなと思ったりもするんですけども、そういうところもお役に立ちたいなということはあるんですけどね。</p> <p>それと、全く話が変わってくるんですが、先ほどから人が少ない、移住の問題も出てきますけども、私も県外から来て20年以上経ちます。不自由さをそう感じないです。実際、車に乗ってるってこともあるんですけど、これは高齢者とかにならなければまた違うんだろうと思いますが、今のところ不自由さを感じないですし、三朝町はいいところだと思ってます。もっと言えば、この三朝町のいいところ、なので利用しないんだろうなというふうに思いますし、私は薪ストーブを使っています。ずっと家を建ててからですね。先ほど、山が多すぎてちょっと困るみたいなことを言われたような気もするんですが、これどんどん利用すべ</p>

	<p>きだというふうに思います。小川さんがいらっしゃいますけども、薪ストーブを作る家が私 が家を建てて、10 数年経ちますが、それ以降すごく増えてきてますし、薪を今売ってるとこ ろも増えてますんで、そういうことをどんどん活用をしたり、キャンプも今ブームになって ますし、ぜひそういうところで、この大切な山を守っていけば、間伐材が使えるわけですか ら、守っていけるんじゃないかなというふうに思います。私事ですが、私の息子が、仕事上 鳥取で家を建ててますが、私が何も言っていないのに薪ストーブで、県産材を使って家を建 てるって言ってますから、やっぱりそれを1 回体験するとですね、これはいいなって思っ てるだろうと、いい意味で伝染していくだろうと思いますので、どんどん宣伝をしていっ ていただければなというふうに思っております。</p>
<p>岩本委員</p>	<p>それでは、通信インフラの事業者といたしまして、これまで三朝町様に対しまして自治体 のシステムですとか教育系のシステムですとか、インターネット環境であったり、そういっ たところをご提案・ご提供をさせていただきました。これからそういった環境をいかに町民 さんに対して活用していただけるかといったところになってくると思いますので、弊社とい たしましては、まず自治体システムのDX、デジタル化、そういったところを、引き続き推 進させていただくとともに、これまで資料2のまち・ひと・しごと創生総合戦略の中でご説 明された中でいきますと人口減少であったりですとか、地域に住みやすいといったところ に關しましては、やっぱり教育環境の充実といったところが課題ではないかといったところ で、そこはICTでお手伝いさせていただくといったところを特に力を入れて進めていき たいというふうに考えております。具体的には、例えば小中学校、いま学校にパソコンです とか、通信・インターネットといった環境整備がなされてると思いますけれども、これをどん な環境でもお使いいただけるというようなところで、教育格差であったりを起こさないとい ったところが必要になってくると思いますので。さらにこういった環境整備を充実させてい くというところを進めていきたいというふうに考えてます。</p> <p>また、こういった地域のデジタル化といったところを、観光分野ですとか、そういった部 分も新たに展開していくというようなところで、三朝町様にはいろんな観光コンテンツがあ ると思いますので、こういったところは情報発信していただいたりですとか、公共交通機 関、こういったところもデジタル化において利便性を高めるというようなところを進めてい くという中で、弊社においてはですね、西日本に30 支店、我々は鳥取支店なんですけれど も、こういった自治体様向けの事例っていうのがどんどん増えてきておりますので、いま政 府が掲げているデジタル田園都市構想交付金、こういったものを活用した形での導入とい ったところも、各府県域において進んでおるといったところがあるので、そういった事例な ども活用させていただきながら、三朝町様の地方総合戦略にまた貢献させていただけたらとい うふうに考えております。</p>
<p>岸田参事 (オブザーバ ー)</p>	<p>青木地域振興監の中のお話もありましたけども、町内で新規参入とかが出て参ったとい うことで、三朝ヨーグルトのお話もあったと思います。三朝ヨーグルトの社長さん、この方、 愛知県からの移住の方で、鳥取砂丘の方にプリンのお店をつくられて、お話を聞いてますと三 朝が大好きで年10 回ぐらい泊まれるということで、移住定住を進めるに当たりまして、 やはり内輪じゃなしに外からの移住者の実際の生の声を聞いていただいて、それを情報発信</p>

	<p>していただくということがいいのかなど。県外の方が三朝町さんには結構おられますので、その辺、情報収集をよろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
<p>松浦町長</p>	<p>ありがとうございます。それぞれにご意見を頂戴をいたしまして、これからの計画の推進に努めていきたいと思ひます。特に人口減少、少子化のお話をたくさんいただきまして、実は今年も予想外に高齢者の死亡された方が多いなというふうに感じておりますし、それから出生数については、コロナで幾分かは諦めもあったわけですが、これからどういふふうに戻っていくかというのはなかなか難しいところがあります。</p> <p>それで、保育園ひとつをとっても、先般、こども園と賀茂保育園と大きな保育園があるんですけど、これまで100人ぐらい定数オーバーしてどうしようかなと思ひたのがここ3、4年の間に6割ぐらいの園児数になってしまひまして、これから増える見込みというのはいさぐさあまりできない。だから、予想以上に少子化が進んでいるということを実感してきております。</p> <p>その中で農業に関しても、いろいろな町内の事業所に関しても、森林もそうなんですけど、若い人の雇用というのはいさぐさ難しいところがありまして、町の生産年齢人口自体も減ってはきておりますが、事業所でも町内に三朝製作所が事業工場拡大をされたり、小鹿地域に内外精機という会社もあって、内外精機さんは結構、倉吉から若い人がおられるので、三朝製作所はいくらでも雇用していわゆる製造業の技術者を育てたいというのもずっと昔から持っておられたんですけど、なかなか町内の中で人がいないと、どうしてもやはり、これから働き方ということから考えてみてもいろいろなニーズがあって、それが大きく変化をしてきている。その中で、三朝町だけではなくて中部圏域、県内含めて、若い人の雇用の場というのをどういふふうに作っていきながら、三朝町として、どういった世代、若い人の世代、高齢者の世代、そういった方の働き手、働いていただく所を作る必要があるのかなと思ひてます。</p> <p>先般、旅館の従業員さんで仲居をしておられた若い人とちょっとお話を聞いていたら、やはり自分の生活設計を考えたときに、何年も勤めたら、結婚して子育てする時に夜の十時ごろまではなかなか無理だなと。そういう思い、気持ちから転職をされたということもあって、それはそうだなというふうに思ひております。ですから、雇用の場のいろいろな形でこれから組み合わせるといふか、それぞれの生活設計の中で、そういうようなことが大事になってくるのかなと思ひてますし、森林についても9割が山でございまして、やはり、森林整備をしたり、活かすといふのは、持続性を持って取り組むことが非常に大事だといふふうに思ひてまして。木を活かすといふことは、山を持っておられる方が、そういうことに関心があるかどうかといふことが大事だと思ひてます。私も山がありますけど、この木を売ってお金にして、という思いは、まだそこまで育ってないのでないんですけど。そういう思いがあれば当然に自分なりに管理をしながら、お願ひをしたりして管理をしていくことになろうと思ひますし、基本的なことなんですけど、自分の山がどこにあって、どんな木が植わって、ぐらいいは、やはり町民の方には知っていただきたいなあとといふことも思ひて、そういうことが、間接的ではありますが、活用の方に結びついていくことかなと思ひてます。</p> <p>それから、保育園の園児数に関連して子育て支援の政策もいろいろあってですね、国の方</p>

も、今年度の予算で目玉にはなっておりますけど、いわゆることも家庭庁ができていろんな子ども子育て政策ができてきて、子育てする人へのインセンティブというのも大事になってくると思いますが、やはりある程度国の方でいろんな方針は出してもらっても、財源をこちらにおろしてもらわないと、結局は言いっぱなしであると、市町村が独自でいろんな施策を考えながら、対応していくというのはこれまでの実態なので、思いとしては保育料ぐらい全額国が見て欲しいな。そこまで言うんだったらみたいなどころも感じております。実際、県内の市町村においては、ほとんどの市町が独自に保育料を補填をして対応してきているというのが実態なのでやはり、国のベースで、子育てに関してだけではないんですけど、地方創生全体として考えるんだったら、そういう視点でして欲しいなというのが私たちの思いでもございます。

それから情報化のこともございまして、本当に情報化の進展というのは、非常に目まぐるしく変わっておって、やはり使う人、見る人から発信する人。いろんな形で知識を持っていただくということは大事だというふうに思っておりますので、さっきスマホ教室のこともおっしゃいましたけど、そういったことを少しずつを広めていくことも、それが町全体の情報化、理解を深めることになるのかなというふうに思っております。

それから地域づくりについては、本当に大きな転換期にきておりまして、これまで種をまく時期が長すぎたかなと思っております。正直、そこから発展をしてきていないというのが多くありまして。やはり6地域が横並びではなくて、これまで取り組んできたこと、実証してきたことを、具体化しながら、それぞれの地域の課題解決、或いは住民の人の、生活しやすい環境づくりというのは、進めていく必要があるというふうに思っております。そんなことを思いながら、これから移住定住対策、いろんな形で発信をしながら、教育の部分についても、やはり都会の人が、三朝の地域の中で学ばせたいという、そういった環境をつくっていくということも一つの移住対策、定住対策だというふうに思っております。これからもいろいろご意見を頂戴をできたら、また今日ご意見を頂戴してないことでも、後日また教えていただければありがたいなというふうに思います。

4 議題

(4) 日本遺産を通じた地域活性化計画事業進捗（令和3年度実績）

資料5

(5) 温泉を活用した健康まちづくり事業基本構想原案における事業の方向性の3つの柱

資料6

松浦町長	<p>それでは4番と5番、次の項目に進めたいと思いますが、日本遺産の件と温泉を活用したまちづくり事業については、今後のことも計画していることなので、あまり詳しい説明をできないところもございます。ちょっと時間もおしておりますので簡単に説明をさせていただいて、またご意見のない方は、ないで結構でございますので、その範囲内でご意見なりご質問を頂戴をしたいと思います。ではよろしくお願いします。</p>
青木地域振興監	<p>それでは、2つの項目について少し簡単にお話をさせていただきます。まず(4)の日本</p>

遺産の関係でございます。再審査ということでご心配をかけたというふうに思っておりますが、現在ははげの功名ではないんですけれども、いわゆる観光の分野に喝が入ったというふうにちょっと思うときがございますが、新しい計画に沿って令和6年度の再審査になるんですけれども、それに向けて頑張っておるところでございます。資料5番は、令和3年度の実績ということで再審査になってから最初の年の実績ということでございます。やはりコロナの関係で、入り込みとかそういった部分が未達成ではございますけれども、まち・ひと・しごとという中で仕事もしくは町というキーワードについては、かなり戻ってきておるといふか頑張っておるかなというふうに思っております。少し課題があると思すと、これは

(2)で地域活性化のために行う事業ということで、1番から7番までの区分の中でやるわけですが、指標の中でやはり日本遺産を守る会とか活かす会というのがございまして、いわゆる町民に限らないとは申しますけれども、町民を中心に参加をするという部分がございます。この辺がやはり少し段取りとやり方とコロナの影響というようなことで、しっかりしていないということがございまして、これにはやはり地域性のこともあるというふうには思っておりますが、少し頑張らないといけないかなというのがこの分野でございます。

それから、2枚目の人材育成の中で「地域プロデューサー」ということで、民間レベルで推進事業を引っ張っていく役をつくれということで、未達成になっておりますが、今日は来ておられませんけれども、旅館組合の沖田さんが、このプロデューサーの役を引き受けていただいております。立場も旅館組合の推進ということもありまして、名実ともに引っ張っていただいているというところは、設定ができておりますので今の展開に繋がっておる部分でございます。

続きまして、資料6でございます。「温泉を活用した健康まちづくり事業の方向性の3つの柱」というものを出しております。この事業につきましては、今回の第2期のまち・ひと・しごと創生戦略の柱の一つとして位置付けておるものでございます。従来から三朝温泉の健康効果というのは、観光の分野ではかなり使われてきておりますし、それなりに例えば新しい商品ですとか、大学等を通じたエビデンスの蓄積等というのもやってきておりました、どちらかという観光に使ってきたものでございましたが、今回はそういった温泉の持っている効果を、まずは町民の健康づくりに活かしてはどうかということで思いつかれたものでございます。「現代湯治」という言葉で、観光では打って出たりしますが、そういったものがあるのであれば、町民もこの機会に健康づくりとあわせて温泉の効能を活用して、健康づくり、また、いま言われておりますフレイル予防とか、そういったものにも活かしていけたらなという形でございます。現在、ワーキングということで町民の方を中心に温泉と健康ということで、11月から2月の初めまでやりましてその結果がこの資料6になったものでございます。こちら三本の柱でございますけれども、「三朝温泉を知ることによる温泉活用への動機をつくる」、いわゆる三朝温泉の持つ効果をもっと知ってもらおうということ、それからそれを2番の「温泉と健康づくりを連動させるプログラム」の中で活用して健康になろうということ。その場を作ろうというので、3番が「入浴施設を整備」しようということでございます。この後、検討委員会を立ち上げまして、基本構想から基本計画へのストーリーを作っていこうとしておりますので、またご意見等がいただければ、活用させてい

	<p>たきます。以上2項目でございます。よろしくお願いいたします。</p>
松浦町長	<p>いま、日本遺産の経過、事業の状況なりそして温泉を活用した健康まちづくり事業の基本的な考え方を説明をさせていただきました。ご意見でもご質問でも、思いつきの提案でも結構でございますので、よろしくお願いいたしますと思います。西田委員からお願いします。</p>
西田委員	<p>それでは、思いつきを述べさせていただきます。観光っていう字からですね、光を観るっていうふうに書くんですけど、日本遺産をずっと考えておりますけど、三朝の場合「観る」というより「感じる」観光で、心で感じたり、肌とか手で感じてそれでリフレッシュするようなそういうイメージで、世間一般でいう風光明媚なところを見る観光というよりは、感じていただくっていうコンセプトをもう少し強く出したほうがいいかなっていうふうな思いをしております。</p> <p>それから、広がりという意味で、この伯耆の国といいましようか、出雲までひっくるめた山陰での温泉文化と資源との関わりをもう少し深めていく、解明していくとか連携していくとか。そういうことにもう少し教育委員会の文化財担当に頑張ってもらおうかなというふうな気持ちでおります。</p>
前田代理委員	<p>まず一つ、三徳山ですね、日本遺産のところですけど。それも素晴らしいコンテンツといたしますか、今までパワースポットというところでもいろんなところが注目を浴びるようなところなので、このパワースポットである日本遺産、そしてもう一つの強いコンテンツが温泉ということなので、うまく、これから旅行業界はコロナ収束というか、ちょっと変わってきて戻ってくると思いますので、そこでうまくこの二つのコンテンツを使って、観光振興がよりできたらいいなと思いますんで、先ほどのお話じゃないですけど日本遺産地域プロデューサーの方が就任されたということですかね、そういう方のいろんな頑張りを期待したいというふうに思います。</p>
太田委員	<p>コロナもありましたので、これからかな、というふうに考えますし、また倉吉市にも美術館もできますし、これと合わせたところでまた一つ、観光の大きな柱となっていくことを期待しております。</p>
塩谷委員	<p>温泉を活用した健康まちづくりの事業、町民目線っていうか視点でってことは非常にいいなと、嬉しいなと思います。これまた私事なんですけど、私の母親が一昨年かな、三朝温泉でお世話になってるんですが、週1か週2ぐらい温泉に行かせていただいていた、「たまわりの湯」ですか、何かちょっと私も詳しいこと聞いてないんですが、たまわりの湯がなくなってしまう。どうしたらいいかっていうことで、今度社協さんの方にお世話になって行かせていただくんですが、たまわりの湯がなくなったらどうなっちゃうんだろうっていう、またここで話が出てくるんだろうなと思ったんですけども、やっぱり町民が使いやすいっていうか、町民の方は三朝温泉に入るといいよっていうのをどんどん広めていただくのは非常に嬉しいなというふうに思っております。</p> <p>それともう一つは、これ突拍子もないことかもしれないんですが、三徳山ですが、雪の日ちょっと郵便物を集荷しに行ったんですけども、私道ということらしいんですけども、坂道になって、谷川天狗堂さんの方じゃない方の道、あそこは非常に上り降りが怖いなど。雪も</p>

	<p>あったんでですけど、雨の日滑りそうだな。皆成院さんのところからずっと登っていくところが雪の水でびちゃびちゃだったんですね。グレーチングでしたっけ。あれが上に乗って、その上を歩いてね、みたいな感じになってたんで。観光客の人も非常に歩きにくそうにしていたので、あそこは何かならないかなというふうなことも感じたりしてますんで、もし何かできるものであれば、そこら辺の私道ですから、なかなか難しいのかもしれないですけども、整備ということもちょっと考えていただければなというふうに思ってます。</p>
岩本委員	<p>私自身もちょっと県外から来たものでして、鳥取県のいろんな観光のエリアっていったところを見たときに、三朝温泉、とても魅力あるところであるなというふうに考えておりました、そこを聞いて県外に住んでた時三朝温泉まで行くといったところは正直なくてですね。こういった三朝温泉のですね、来てわかる魅力をですね、ICT上で発信をしてですね、県外、日本全国に情報発信できるという環境になろうかと思っておりますので、そういった形で魅力をどんどん発信していくといったところ、あと説明の方でおっしゃられた、私は町民の方が健康づくりに三朝温泉を活用するっていうのも非常にいいアイデアだと思いますので、町民の方々にとってもメリットがあって、地元だからなかなか足が向かないということでなくて、今度は地元だからこそ、される健康づくりであるといったところを町民さんの付加価値、例えばポイントですとか、そういった部分でもICT活用してですね、ポイント制度で何か町民さんにとって価値のあるサービスが受けられるというようなところも付加したような形で、事業を進められたらいいのではないかとというふうに感じました。</p>
福田委員	<p>日本遺産の件は、青木振興監が言われたように、いい機会になったのかなと。もう1回見直すいい機会だったというふうに思ってます。それから温泉施設の方は、今までも構想はあったわけですけど、なかなか実行というところまでは行ってない案件です。とても大事な事業だと思いますので、腰を据えてやっていただければというふうに思います。</p>
山本委員	<p>何年か前に農家の方に聞いた話で今ちょっと気になったなというのは、皆さんにご披露したいのが、お米とかいろんな農産物と、六根清浄とか、この辺の関連は、どうもおおざりになってるのか、連帯感は全くないというのかね。その辺のところで言われたのが、修行僧のためのお米とか、要するにさっき言われたパワースポットみたいな感覚にもって、そういうところで食べるものとか、そういう体験をさせるとか。食も含めて、旅館の方もあられるかもしれないんですけど、それでお米自身も、あそこで祈祷してもらった種もみを使うとか、そんな話で物語を作ったらどうかっていう意見があって。面白いなと思ったんですけど、その時は、周りの人がちょっと笑って終わった世界があったんですけど。いや、こうなってくると面白いんじゃないかなと思って。何か繋がりができていいかなとは思ったんで今ちょっと、ご披露させていただきます。</p>
小川委員	<p>自分の方からは、5番の温泉活用というところで自分の立場でご意見を申し上げたいと思います。何回も言いますが、何とかこの地元の温泉活用の中に、森林というものを、温泉浴と森林浴というものを何かコラボしたような取り組みというのができないかなと。この目的が、ちょっと自分の言うことと違うかもわかりませんが、以前人形峠を超えてトンネルを越えると綺麗に山の手入れがしてあって、と県外の方が言われたということもちょっと耳</p>

	<p>にしたことがありますけども、何かそういったものをちょっと温泉の中にとり入れていただいて、何かまた三朝町独自の新たな取り組みというものを進めていただければ、また変わった展望が開けるんじゃないかなということをおもっております。森林浴は、以前1回考えたことがあるんですけど、森林の中に温泉の治療の中に身障者の方がですね、車椅子でも、ちょっと平たんな森林というものを作ってですね。車椅子でちょっと散策できるようなところを例えば独自で作ってみたり、何かそういったこともまたご検討いただければなおもっております。</p> <p>それと、さっき意見の時にちょっとお聞きするの忘れちゃったけど。後先で申し訳ありませんけど、今回のゼロカーボン宣言をされた中ですね、三朝町のS B Tというか、二酸化炭素、温室効果ガスの排出削減目標というようなものを多分お立てになっておるかと思っておりますけども。そういった中で、我々の立場として、今後森林の整備をすることによって、そのS B Tの目標に値するような取り組みができればなおもということをおもっておりますので、またあらためてご教示いただければと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。</p>
野上委員	<p>感想と思いいことで発言させていただけたらと思っております。ある程度の年齢の方っていうのはその温泉＝三朝町さんということで、知名度はあるかなと思っております。私も昨年山口からこちらに参ってくるときに、倉吉に住むんですけどって言ったら、隣に、近くに三朝温泉、いいところあるよねっていうふうに言ったぐらい知名度があるのかなと思っております。果たして若い人にどうかなっていう…といったところがございまして。特に若い方に三朝町さんを知ってもらうために、この資料の5番の中にありました、三徳山のバーチャルリアリティーってのはすごくいい事業だなというふう思ったので、ぜひ進めていただけたらなおも思っております。</p> <p>その他にも、すごくたくさん事業コンテンツがありますので、それをもっともっとアナウンスしていただいて、若者に知っていただいて移住定住に結びつけていただけたらいいのかなというふうにおもっております。</p>
山名委員	<p>日本遺産を通じた観光の話と、温泉を活用した健康まちづくりの事業ということで、拝見をいたしました。どちらとも、いわゆる広報ですね、告知といったようなところが必要になってくると思うんですが、これが一方は外に向けた広報、一方は内側に向けた、いわゆる町内の方に知っていただくというような広報になるかと思っております。知る機会の整理というような言葉で表されていますが、そういった中でケーブルテレビや日本海新聞だけではなくて他にも、告知の媒体とかがあっていうのはたくさんあるかと思っております。媒体によってそれぞれどこに向けたものなのかというようなおもところを整理しながら、それぞれに一番適した方法で、そういったことを活用していただくことが大事かなというふうにおもいました。</p>
松浦町長	<p>ありがとうございました。これから事業を進めていきたいと思っておりますし、岸田参事の方には温泉施設の国の補助事業を是非とも引っ張り出して紹介していただいて、そんなにプラス県の補助金をつけていただくようなことをお願いできたらなおも思っております。小川組合長さんには、私は木を使った施設にしたいと思っております。特に檜風呂を私は作りたいという思いがあつて職員は反対しますが、ヒノキを是非とも算段をしていただければありがたいなおも思</p>

	います。
--	------

5 閉会

松浦町長	<p>大変短い時間の中で、多くのご意見を頂戴をしていただきまして、本当にありがとうございました。最初にも言いましたように、また会議が終了してから後日でも結構でございますので、ご意見等をいただければありがたいというふうに思います。それでは私の進行はここまでとさせていただきます。</p>
青木地域振興監	<p>それでは、こちらで準備をしました日程は以上でございますが、最後に皆さんの方で何かお知らせ、とかこれ言っておこうかなということがなければ、以上で終わりたいと思います。どうもありがとうございました。</p> <p>なかなか2月末ということで出にくい時間帯だったと思います。引き続き、先ほど町長も申しましたが、こういうペーパーを入れておりますので忌憚のないご意見をいただきながら、それを糧にして進めて参りたいと思いますし、日頃より、三朝町に注目をしていただいて叱咤激励いただければ助かると思っておりますので、引き続きよろしく願いをいたします。</p> <p>では、以上で終わりたいと思います。どうもありがとうございました。</p>

11:45 閉会